

## 1 1 . 農学部

I	農学部 <sup>の</sup> 教育目的と特徴	11-2
II	「教育の水準」の分析・判定	11-3
	分析項目 I 教育活動の状況	11-3
	分析項目 II 教育成果の状況	11-12
III	「質の向上度」の分析	11-19

## I 農学部の教育目的と特徴

### 1. 教育目的・理念・目標

農学は、人類の平和と生存に必要な総合科学であり、健康で豊かな生活を営むに足る安全・安心な「食」の安定供給と生産に要する資源の開発と確保を図り、人間生存環境の保全に関わる学問である。岡山大学農学部はこの基本理念に基づき、「総合的な教育研究を行い、多様化する社会の要請に応えるとともに、幅広い基礎学力と応用展開能力を備えた人材を養成する」ことを目的としている（農学部規程第2条）。

農学部ディプロマポリシーでは、以下の学士力の習得を目標に掲げ、バイオサイエンス、フィールドサイエンス、エコソーシャルサイエンスを一体化した総合的教育を行い、学生が幅広い基礎学力と確かな専門知識、応用能力を習得できるように努めている。

- ・ 教養：人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につける。
- ・ 専門性：農学の専門的な学識と技術を身につけ、それを適切に応用する。
- ・ 情報力：農学的な知識と経験を蓄積し、効果的に情報発信する。
- ・ 行動力：全人類の生存と福祉に貢献する。
- ・ 自己実現力：農業の進歩と農学の発展に寄与する。

### 2. 教育の特徴

本学部の最大の特徴は、昭和61年から導入した「総合農業科学科」1学科制にあり、平成18年には教育コース（以下「コース」という。）制を再編した。低学年では農学の幅広い学問分野を学び、年次進行に伴ってコースに分属し、専門性の高い知識を身に付ける教育体系である。さらに、本学部には、附属教育研究施設として、山陽圏フィールド科学センター（以下「FSセンター」という。）が設置されている。農学部の入学定員は1学科120人、教員は65名（平成28年3月31日現在）である。

#### [想定する関係者とその期待]

想定する関係者は、農学部にて在籍する学生及び卒業生を受け入れる社会である。期待される学生とは、幅広い農学の学問分野を習得し、高い専門性と研究能力を備え、多様化する社会に対応できる人材と捉えている。また、卒業生を受け入れる社会には、研究機関や企業、行政機関などが含まれ、その期待とは、農学部で学んだ学生が地域、全国さらには海外において農業の進歩と農学の発展に貢献することと捉えている。

## II 「教育の水準」の分析・判定

## 分析項目 I 教育活動の状況

## 観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

## 1. 教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

## 【専門性と総合性を備えた人材育成を実現する1学科・4コース制】

本学部では、時代のニーズに柔軟に対応できる専門性と総合性を備えた人材育成のため、農芸化学、応用植物科学、応用動物科学及び環境生態学の4コースを備えている(資料Ⅱ-I-1)。1年次では農学の基礎知識を幅広く習得し、自らの学問分野を選択し、2年次からは各コースに分属して体系的なカリキュラムに沿って、徐々に専門性の高い知識・研究能力を身に付ける(出典：学生便覧)。附属教育研究施設のFSセンターで実践的実習教育の場を提供している。

## 農芸化学コース

生命現象を化学的視点で理解する能力を養い、微生物、植物、昆虫、ヒトを含む動物由来の代謝産物、糖鎖、脂質、タンパク質(酵素)、遺伝子などの分子レベルでの研究により、生物資源や生物機能を人間生活に役立てるバイオサイエンスやバイオテクノロジーの基礎と応用を修得するコース。

## 応用植物科学コース

農業生産の基盤をなす植物を対象として、有用機能の解析や遺伝的改良、植物病害の発病・防御応答機構の解明とその制御、生産力を安定かつ最大限に発揮させる栽培管理技術、生産物の効率的な流通・貯蔵技術などに関する基礎と応用を修得するコース。

## 応用動物科学コース

各種動物の成長と繁殖、物質生産に関わる生命現象や諸機能の理解能力を養い、効率的な動物生産技術の開発や畜産食品の品質、保蔵、加工に関する理化学的、微生物学的技術開発、健康・医療支援などの動物生命科学領域の発展に寄与する基礎と応用を修得するコース。

## 環境生態学コース

地域レベルから地球レベルを対象に、環境保全、生態系の維持と解明、食料と資源の持続的確保、効率的な生物生産システムの開発を目指し国際的視点に立つ人材養成に向け、生態学、進化学、社会学、経済学、システム工学の基礎と応用を修得するコース。

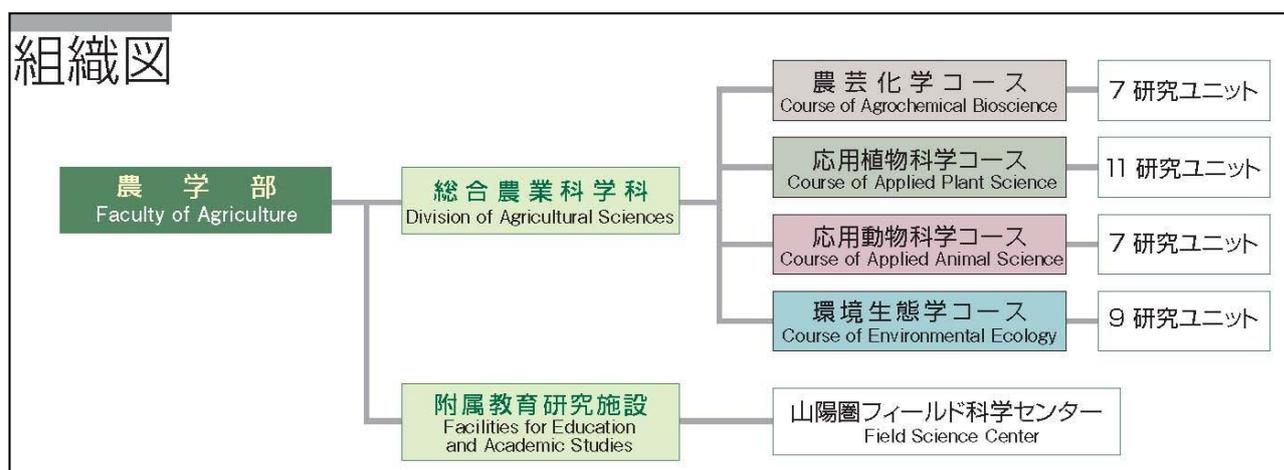
## 【細やかな指導を行うための教育研究体制】

入学定員は1学科120人、各学年の現員は資料Ⅱ-I-2のとおりである。学生は2年次から各コースに分属し、4年次には34の研究ユニットに分かれ、卒業論文研究を行う。卒業論文研究では、教員1人当たり約2人の学生を担当し、細やかな教育研究指導を実施している。

## 2. 多様な教員の確保の状況とその効果

教員の配置は、教授29人、准教授25人、助教10人である(資料Ⅱ-I-3)。教員公募の際には男女共同参画を推進し女性教員のサポート体制を整えていることを明記している。実際に、ウーマン・テニユア・トラック(以下「WTT」という。)助教1名を含む6名の女性教員が在職しており、有能な若手女性研究者に教育・研究の場を確保するとともに、本学部学生のほぼ半数を占める女子学生の活性化にも貢献している。学部教育に関する重要事項は、学部長、副学部長、FSセンター長、事務室長等による学部長室会議、教務FD委員会や学部運営会議で討議され、教授会(教員会議)で決定される。

資料Ⅱ－Ⅰ－1：農学部の教育・研究組織



(出典：岡山大学農学部概要)

資料Ⅱ－Ⅰ－2：農学部の入学定員及び現員

平成 28 年 3 月 31 日現在

学科	コース	入学定員	現員				現員合計	専任教員数
			1年次	2年次	3年次	4年次		
総合農業科学科	農芸化学コース 応用植物科学コース 応用動物科学コース 環境生態学コース	120	129	121	131	132	513	65

(出典：岡山大学概要)

資料Ⅱ－Ⅰ－3：農学部の教育スタッフ

平成 28 年 3 月 31 日現在

学科	コース	専任教員数			
		教授	准教授	助教	計
総合農業科学科	農芸化学コース	8	3	3(1)	14(1)
	応用植物科学コース	10	9	3(0)	22(0)
	応用動物科学コース	5	6	2(0)	13(0)
	環境生態学コース	6	7	2(0)	15(0)
	計	29	25	10(1)	64(1)

※ ( ) 内は WTT 教員で外数

(出典：農学部総務担当資料)

3. 入学者選抜方法の工夫とその効果

【一般入試（前期日程）への英語導入】

農学部一般入試（前期、後期日程）の科目及び配点は資料Ⅱ－1－4の通りである。大学教育の高度化、国際化に伴う基礎的英語能力の必要性の高まりに応じて、平成 27 年度一般入試（前期日程）から英語を加える変更を行った。その結果、入学直後の TOEIC 試験成績は 30 点以上向上し（資料Ⅱ－1－5）、スーパーグローバル大学としてより高度な英語教育を実施する基礎を確立した。

資料Ⅱ－Ⅰ－4：農学部一般入試の科目及び配点

試験の区分	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	配点合計
-------	----	-------	----	----	-----	-----	------

前期日程	センター試験	200	100	200	200	200	—	900
	前期日程	—	—	200	200	100	—	500
	計	200	100	400	400	300	—	1,400
後期日程	センター試験	100	100	200	200	100	—	700
	後期日程	—	—	—	—	—	200	200
	計	100	100	200	200	100	200	900

(出典：平成 28 年度入学者選抜要項)

資料Ⅱ－Ⅰ－5：農学部生の入学直後の TOEIC 試験成績変化

入学年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
TOEIC 平均点	439	447	480

(出典：平成 27 年度第 1 回教育開発センター運営委員会資料)

【活力ある学生を求める多様な入試】

高校までの多様な経験を評価し、農学への勉学意欲の高い多様なバックグラウンドを持つ学生確保のために推薦入試、帰国子女入試、社会人入試を実施している（資料Ⅱ－Ⅰ－6）。特に農業高校を中心とした推薦入試 A では、小論文、面接により基礎学力を担保した上で、活力ある学生の選抜に努力している。この入試での入学生は卒業後、農業高校教員や地元のリーダーとして活躍する他、大学院でさらに研究を進める者も多い。

資料Ⅱ－Ⅰ－6：推薦、帰国子女入試、社会人入試による入学生（農学部）

入学年度	定員	H25 年度	H26 年度	H27 年度
推薦入試 A：実業高校卒業生向け	6	6	6	5
推薦入試 B：普通科高校卒業生向け	12	12	12	12
社会人・帰国子女・私費外国人留学生	若干人	0	1	0

(出典：農学部教務学生担当資料)

4. 教員の教育力向上のための体制整備とその効果

【教員の教育力向上への取組】

本学部では、教務 FD 委員会を設置し、大学の教育改革や教務行事の遂行に関わる重要案件を検討し、学部における教育内容・授業の改善を進めている。（別添資料 1：教務 FD 委員会事例）。教員の学生への対応力、教育力向上に向けて、以下のように多様な企画に精力的に取り組んでいる（資料Ⅱ－Ⅰ－7）。

資料Ⅱ－Ⅰ－7：教育内容・体制改善のための各種企画

実施年度	開催日	テーマ	会場	内容
H22	12/10	ハラスメント防止研修会	農学部 多目的室	国際センター・留学生相談指導担当教授による留学生に係るハラスメントの事例と対策の紹介
	12/24	研究費コンプライアンス・安全保障輸出管理研修会	農学部 多目的室	研究交流部による安全保障貿易管理の基本及び研究費等の不正使用防止に係る説明
H23	11/30	ハラスメント防止研修会	農学部 多目的室	ハラスメント防止委員会委員長によるハラスメントチェックシートの配布及び DVD の視聴
	3/2	コンプライアンス意識啓発研修会	農学部 多目的室	研究担当理事による研究費の不正防止に関する説明

H24	7/4	農学部入試の分析と今後の入試展望	農学部 多目的室	ベネッセコーポレーションによる岡山大学農学部受験状況の分析結果と今後の入試展望の紹介
	11/28	ハラスメント防止研修会及びメンタルヘルス研修会	農学部 多目的室	保健管理センターによるハラスメントとその周辺の話題及び対策の紹介
	3/1	コンプライアンス意識啓発研修会	農学部 多目的室	研究担当理事による研究費の不正行為防止に関する説明
H25	6/26	農学部入試の分析と今後の入試展望	農学部 第3講義室	ベネッセコーポレーションによる岡山大学農学部受験状況の分析結果と今後の入試展望の紹介
	10/23	ハラスメント防止研修会	農学部 多目的室	ハラスメント防止に係るDVDの視聴
H26	2/27-28 3/13-14	「ファカルティ・アンバサダの養成及び支援プログラム」にもとづく英語による専門教育の高度化プログラム	農学部 講義室	ブリティッシュ・カウンシルが提供する高等教育機関向けプログラム(English for Academics 及び Academic Teaching Excellence)を利用して、教員に対する英語研修を実施
H27	11/27-28	「ファカルティ・アンバサダの養成及び支援プログラム」にもとづく英語による専門教育の高度化プログラム	農学部 講義室	ブリティッシュ・カウンシルが提供する高等教育機関向けプログラム(English for Academics 及び Academic Teaching Excellence)を利用して、教員に対する英語研修を実施
	12/11-12			
	12/18-19			
	1/8-9			
	1/22-23 1/29-30			

(出典：農学部教授会資料)

## 5. 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果

### 【授業評価アンケートの実施、評価】

授業改善に資するために学生授業評価アンケートを行い（資料Ⅱ-I-8）、その結果を各教員にフィードバックしている。継続的かつ多様な取り組みによって、以下のように、学生の授業評価は高いレベルを維持し、教育に対する満足度は向上している。

資料Ⅱ-I-8：授業評価アンケート集計結果

		「授業全体に対する評価」の集計結果				対象 講義数	最終評価 者数	回答 講義率 (%)	回収率 (%)	
		評点 平均	平均評点 4.0 以上		平均評点 3.0 未満					
			講義数	割合 (%)	講義数					割合 (%)
第2期	H22	4.0	83	68.6	0	0	121	6,046	100	92.4
	H23	4.0	83	67.5	0	0	123	5,965	100	92.4
	H24	4.2	94	82.5	0	0	114	5,800	100	95.1
	H25	4.1	93	82.3	0	0	113	5,588	100	95.9
	H26	4.1	74	65.5	0	0	113	5,445	99	91.5
	H27	4.1	43	69.3	0	0	62	3,022	100	93.0

(出典：農学部教務学生担当資料) ※平成27年度は前期分のみ

## 【授業ピアレビューによる講義の質向上と講義技術向上】

講義技術の向上を目的として、学生からの評価の高い優秀授業を教員に公開し、授業技術を学び検討する「ピアレビュー」を実施している（資料Ⅱ－Ⅰ－9）。毎回多数の教員が出席し、検討会では活発かつ建設的な議論が行われている。教員からは、優秀教員の授業に対する姿勢、多様な工夫やコツを学び、自らの授業改善に大いに役立ったと高い評価を集めている。平成27年度からこの取り組みを大幅に強化し、年8回の開催とした。

## 資料Ⅱ－Ⅰ－9 農学部授業ピアレビューの実施状況

実施年度	開催日	会場	内容
H22	12月2日	農学部	「食品化学」の公開授業
H23	12月9日		「花卉園芸学」の公開授業
H24	12月3日		「動物生産管理学」の公開授業
H25	5月17日		「農業ロボット工学概論」の公開授業
H26	6月17日		「動物細胞科学」の公開授業
H27	4月17日		「動物内分泌学」の公開授業
	6月3日		「森林生態学概論」の公開授業
	6月16日		「園芸学」の公開授業
	6月17日		「生物化学Ⅰ」の公開授業
	10月1日		「植物病害防除学」の公開授業
	10月27日		「動物生体防御学」の公開授業
	12月9日		「農業経済学」の公開授業
	1月18日		「生物有機化学」の公開授業

（出典：農学部教授会資料，教務FD委員会資料）

## 【学習困難学生の抽出と対応】

語学講義や概論講義の成績や出席状況，単位取得状況をモニターし，成績不振学生の早期発見と担任・指導教員による適切な指導に努めている。平成26年度から，成績不振学生に対し大学院生による個別支援を行うアカデミック・アドバイザー・アシスタント（以下「AAA」という。）制度を設置し，学習困難学生への支援を強化した。この制度の支援により TOEIC 成績が半年間で160点以上向上した事例もある。

（水準） 期待される水準にある

（判断理由）

1 学科・4コース制は，多様化する社会の要請に応える学生養成に向けた強固な体制と判断している。各学年に8名のクラス担任教員を配置し，卒業論文の指導では教員1人当たりの学生数は約2名であり，きめ細かい指導が行われている。教務FD委員会では教育内容・方法の改善などの検討を行い，授業ピアレビュー，各種研修会を開催して学部全体で教育の改善を推進している。学習困難学生には組織的に対応し，成績不振学生を支援するAAA制度を設置し活用している。この結果，学生授業評価アンケート評点は高い水準を維持している。

## 観点 教育内容・方法

（観点に係る状況）

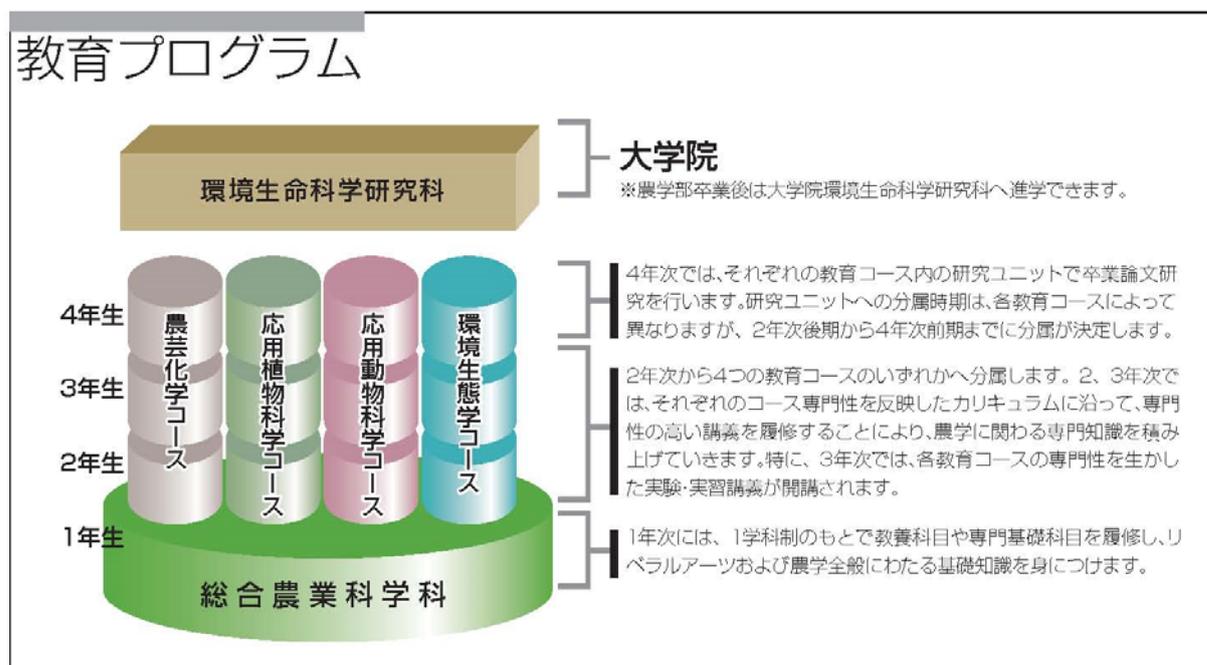
## 1. 体系的な教育課程の編成状況

## 【1学部1学科制における段階的積み上げカリキュラム】

本学部教育課程では，学生が低学年で幅広い基礎知識を修得した後に，自らの志望と適性に応じたコース選択を行い，さらに専門分野の知識を積み上げていく（資料Ⅱ－Ⅰ－10）。

教養教育科目，専門基礎科目，専門科目に対して，講義，演習，実験，実習がバランスよく配置されている（資料Ⅱ－Ⅰ－11，別添資料2：履修細則と履修課程表）。カリキュラムは，個々の学生の適性に応じ，指導教員との相談の下に柔軟に作成できる。履修モデルを用い，適切な履修指導を行っている（別添資料3）。個々の授業では，目標を明記したシラバスで概要を把握し，体系的な学習を行う（別添資料4）。

資料Ⅱ－Ⅰ－10：農学部の教育の編成と課程



（出典：大学案内）

資料Ⅱ－Ⅰ－11：農学部の教育の編成と課程

科目区分等		単位数	
教養教育科目	ガイダンス科目		2
	主題科目	現代の課題	17
		人間と社会	
		健やかに生きる	
		自然と技術	
	個別科目	人文・社会科学	6
		生命・保健科学	
自然科学			
外国語科目	12		
計		37	
専門教育科目	専門基礎科目	22	
	専門科目	65	
	計	87	
合計		124	

（出典：農学部学生便覧）

2. 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫  
【地域との連携による実践的教育プログラムの充実】

学生が実践的かつ最新の情報を獲得する科目として、中国四国農政局による「日本農業論」、岡山県との地域連携協力による「牧場の実習」、農業者や現場担当者を招いた「地域農業活性化実践論」、「地域活性化システム論」を開講している（資料Ⅱ－Ⅰ－12、13）。取得できる資格には、教育職員免許状（高等学校（理科・農業））、食品衛生管理者があり、食農環境管理士、家畜人工授精師の受験科目一部免除、また、食品衛生監視員、実験動物一級技術者、危険物取扱者（甲種）の受験資格が得られ、学生の要望に応じている。

平成 24 年度より実践的な教育を目的とした「生殖補助医療技術キャリア養成特別コース」（資料Ⅱ－Ⅰ－14）を医学部保健学科と連携して開設し、学生に胚培養士としての進路を提供するとともに、少子化対策に貢献しており、このコース設置に対する学生及び地域社会からの評価は極めて高い。

資料Ⅱ－Ⅰ－12：地域農業活性化実践論と地域活性化システム論の概要

The image contains two posters. The left poster is titled 'Practical theory for activation of regional agriculture' and describes a course for farmers and university students. It includes details about dates (September 25-26), topics like grape cultivation, and contact information for the instructor. The right poster is titled '農学と地域活性化' (Agriculture and Regional Revitalization) and lists three sessions: 1. Forest and Forestry, 2. Urban Agriculture, and 3. Agriculture and Disaster Preparedness. It includes dates, times, and contact information for the department.

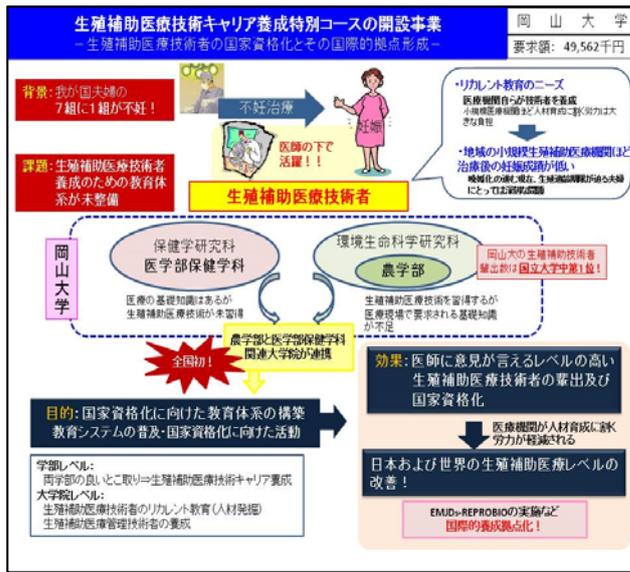
（出典：農学部教務学生担当資料）

資料Ⅱ－Ⅰ－13：実践的講義の受講者数

科目	履修者数				
	H23	H24	H25	H26	H27
日本農業論	103	115	122	110	122
地域農業活性化実践論	/	/	20	17	19
地域活性化システム論	32	27	10	18	12

（出典：農学部教務学生担当資料 ※斜線は未開設を示す）

資料Ⅱ－Ⅰ－14：生殖補助医療技術キャリア養成特別コースの概要



平成25年度

	平成23年入学	平成24年入学	平成25年入学	平成26年入学	大学院生(科目等履修生)	修了者	備考
農学部	2	15	0	0	0	—	平成23年入学者1名辞退
医学部保健学科	0	2	5	0	2	—	

平成26年度

	平成23年入学	平成24年入学	平成25年入学	平成26年入学	大学院生(科目等履修生)	修了者	備考
農学部	3	16	11	12	0	3	
医学部保健学科	0	4	5	6	2	1	

(出典：概算要求資料，農学部教務学生担当資料)

### 3. 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

#### 【英語講義と多様な国際関連コース】

大学間協定に基づく単位互換システム EPOK (Exchange Program Okayama)によって留学生を受け入れ、英語講義「The Cutting Edge of Agricultural Sciences (農学の最前線)」を開講し、全学部生に開放している。グローバル人材育成院、英語副専攻コース、先進基礎科学特別コース参加学生数、長期海外留学経験数は下表のとおりである。

資料Ⅱ－Ⅰ－15：国際関連コース，海外留学への参加者数（農学部生）

年 度	グローバル人材育成特別コース	英語副専攻コース	先進基礎科学特別コース	長期海外留学(2ヶ月以上)
H23		4	5	0
H24		1	6	0
H25	3	2	1	7
H26	4	1	3	5
H27	4	1	0	3
合計	11	9	15	15

(出典：農学部教務学生担当資料 ※斜線は未開設を示す)

### 4. 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

#### 【大学間連携を活用した多様な実習プログラム】

広大な農場を活用した多様な「フィールド実習」は本学部の特徴である。他大学との単位互換制度も整備しており(資料Ⅱ－Ⅰ－16)、FSセンターでは「中四国国公立大学 大学間連携プロジェクト 長い夏休み。未知のフィールドへの旅。」(資料Ⅱ－Ⅰ－17: 大学間連携フィールド演習)に参画し、「牧場実習 in 岡山大学」(別添資料5)、「晴れの国岡山-農場体験実習」(別添資料6)の2つの授業を開講している。

資料Ⅱ－Ⅰ－16：他大学との実習関連単位互換制度の実施状況

【派遣】

科目	種別	単位数	参加人数					開講大学
			H23	H24	H25	H26	H27	
里山フィールド演習	専門	2	10	6	6	3	3	鳥取大学
果樹園芸の里フィールド演習	専門	2	5	5	6	7	4	愛媛大学
里海フィールド演習	専門	2	3	0	4	2	4	広島大学
酪農フィールド演習	専門	2	2	7	4	4	7	広島大学
作物生産科学フィールド演習	専門	2	/	3	8	0	3	山口大学
臨海資源科学演習	専門	2	/	0	1	0	1	広島大学
食品資源フィールド演習	専門	1	/	/	6	3	4	県立広島大学

【受入】

科目	種別	単位数	人数					対象大学
			H23	H24	H25	H26	H27	
牧場実習	専門	2	20	20	20	18	20	鳥取大学, 島根大学, 広島大学, 県立広島大学, 山口大学, 香川 大学, 愛媛大学, 高知大学
「晴れの国岡山」 農場体験実習	専門	1	/	22	20	18	19	

(出典：農学部教務学生担当資料 ※斜線は未開設を示す)

資料Ⅱ－Ⅰ－17：中国・四国地区大学間連携フィールド演習

**平成26年度  
中国・四国地区大学間連携フィールド演習**

長い夏休み。未知のフィールドへの旅。

このプログラムでは、中国・四国地区の国立大学農学部が連携して、生物資源を基にした食と環境に関わる総合的なフィールド演習を行います。自大学にはないフィールド分野について、受講・体験・調査・発表し、大学間の学生の交流を行うことを目的としています。

～参加大学～  
鳥取大学農学部  
島根大学生物資源学部  
岡山大学農学部  
広島大学生物生産学部  
県立広島大学生命環境学部  
山口大学農学部  
香川大学農学部  
愛媛大学農学部  
高知大学農学部

平成26年度に開講されるのは次の9授業です。詳細については、各実施計画書でご確認ください。

- 里山フィールド演習 (鳥取大学)**  
農学部FSC実習研究社 里山の森、仙雲の森  
および大山神社国立公園  
平成26年9月8日(月)～9月12日(金)  
2単位  
定員：54名 (9大学×6名を原則とする)
- 森林フィールド演習 (高知大学)**  
緑のフィールド  
平成26年8月5日(火)～8月9日(土)  
2単位  
定員：20名
- 果樹園芸の里フィールド演習 (愛媛大学)**  
平成26年8月18日(月)～8月22日(金)  
2単位  
定員：30名
- 臨海資源科学演習 (広島大学)**  
農学部科学部材料環境部門の演習フィールド(広島県新井)  
平成26年8月8日(金)～8月12日(火)  
2単位  
定員：10名程度
- 里海フィールド演習 (広島大学)**  
生物生産学部附属瀬田島養殖場  
平成26年9月2日(火)～9月5日(金)  
2単位  
定員：18名
- 「晴れの国岡山」農場体験実習 (岡山大学)**  
農学部附属岡山県農産物生産センター  
平成26年9月17日(水)～9月19日(金)  
1単位  
定員：35名  
(うち20名を岡山大学以外の大学から募集)
- 牧場実習 (岡山大学)**  
農学部附属岡山県農産物生産センター  
平成26年9月1日(月)～9月5日(金)  
2単位  
定員：35名  
(うち20名を岡山大学以外の大学から募集)
- 食品資源フィールド科学演習 (県立広島大学)**  
生命環境学部材料環境部門の演習フィールド(広島県新井)  
平成26年9月8日(月)～9月11日(木)  
1単位  
定員：12名
- 酪農フィールド科学演習 (広島大学)**  
生物生産学部附属瀬田島養殖場  
平成26年8月26日(火)～8月28日(金)  
2単位  
定員：30名程度  
(うち10名を広島大学以外の大学から募集)

(出典：農学部教務学生担当資料)

## 5. 学生の主体的な学習を促すための取組

## 【インターンシップと実用英語自主学習支援】

本学部では企業等におけるインターンシップ単位認定を実施している（資料Ⅱ－Ⅰ－18）。参加学生のアンケートからは、貴重な体験を積み、農学と現場の関係を深く学んだ様子が確認されている。また、学生の英語能力学習支援のため、200点以上のTOEIC成績向上に対して語学検定料の補助を実施している（資料Ⅱ－Ⅰ－19）。

資料Ⅱ－Ⅰ－18：インターンシップ参加者数及び単位認定者数

年度	参加者数	単位認定者数	主な受け入れ企業・事業所等
H22	6	6	農林水産省中国四国農政局，香川県庁，倉敷市立自然史博物館，生物系特定産業技術研究支援センター，中国銀行，銘建工業(株)，日本植生(株)，(株)サタケ，倉敷成人病センター，岡山二人クリニック，三宅医院
H23	7	4	
H24	11	8	
H25	7	7	
H26	8	8	
H27	4	4	

（出典：農学部教務学生担当資料）

資料Ⅱ－Ⅰ－19：TOEIC検定料補助の実施状況と申請条件

	H25年度	H26年度	H27年度
申請学生数	8	6	4

TOEIC-IPのスコアが200点以上または初めて650点以上に達した者と650点以上からさらに50点以上向上した者に、それまでの受験料を補助。

（出典：農学部教務学生担当資料）

（水準） 期待される水準を上回る

（判断理由）

本学部は、教育目標に沿って、低年次の総合的・基礎的講義から、学年進行に伴って専門的な講義に向かう教育体系を構築している。農学教育の特徴であるフィールド実習や学外講師を含めた「地域活性化システム論」、実践的教育を目指した「生殖補助医療技術キャリア養成特別コース」など、地域連携を活用し多様かつ高度なメニューを用意している。大学院生によるTA制度も活用し、教育効果を高めている。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

## 観点 学業の成果

（観点到に係る状況）

## 1. 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

## 【高い授業評価と卒業率】

本学部では、体系的なカリキュラムと厳格な成績評価、綿密な研究指導による卒業論文研究を通して社会の要請に対応できる幅広い基礎学力、専門知識と応用能力を備えた人材養成に努めている。学生授業評価アンケート（5段階評価、資料Ⅱ－Ⅰ－8）では、農学部の専門教育科目に、3.0以下の授業はなく、総平均4.0以上の高い水準にあり、さらに授業ピアレビュー等の実施により、教育の質は保たれている。最近5年間では約90%の学生が標準修業年数の4年間で卒業し、その後の過年度生卒業を加えると、最終卒業率はおよそ95%である（資料Ⅱ－Ⅱ－1）。

資料Ⅱ－Ⅱ－1：農学部卒業生及び標準修業年限卒業生の推移

入学 年度	卒業 年度	入学 者数	卒業 者数	4年次 卒業率 (%)	H21 (%)		H22 (%)		H23 (%)		H24 (%)		H25 (%)		H26 (%)	
					前 期	後 期										
H17	H20	151	130	86.1	87.0	90.7	91.3	92.0	92.0	92.6	92.6	93.3	—	—	—	—
H18	H21	140	130	92.8	—	—	93.6	97.1	97.1	98.6	—	—	—	—	—	—
H19	H22	124	110	88.7	—	—	—	—	90.3	93.5	93.5	94.4	94.4	—	—	—
H20	H23	137	124	90.5	—	—	—	—	—	—	90.5	93.4	93.4	97.8	97.8	98.5
H21	H24	140	125	89.2	—	—	—	—	—	—	—	—	90.0	93.6	93.6	95.0
H22	H25	128	115	89.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	89.8	95.3
H23	H26	128	121	94.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(出典：農学部教務学生担当資料) 平成17年度の転学部1人は含まず

## 2. 資格取得状況、学外の語学等の試験の結果、学生が受けた様々な賞の状況から判断される学習成果

### 【学生の受賞と資格取得】

本学部学生の卒業論文研究の成果は多数の学術発表に結実し、学会、民間企業、大学から4年間で15件の受賞を得ている(資料Ⅱ－Ⅱ－2)。特に、ヤンマー学生懸賞論文では優秀賞を受賞し、賞金も獲得している。また、資格取得に関しては、直近3年間では平均約7%の学生が理科または農業の教育職員免許状を取得している(資料Ⅱ－Ⅱ－3)。食品衛生監視員資格にも数件の申請実績がある。

資料Ⅱ－Ⅱ－2：学会及び民間企業等からの受賞学生数

年度	学会等	民間企業	備考(民間企業部門)
H23	3	2	第22回ヤンマー学生懸賞論文優秀賞2名(賞金各10万円)
H24	4	2	第23回ヤンマー学生懸賞論文優秀賞1名(賞金10万円)
H25	1	0	
H26	1	2	第25回ヤンマー学生懸賞論文優秀賞2名(賞金各10万円)
計	9	6	

(出典：農学部学術報告)

資料Ⅱ－Ⅱ－3：農学部学生による教員免許資格取得状況

年度	高校一種(理科)	高校一種(農業)	延べ人数	実人数
H22	4	4	8	7
H23	5	0	5	5
H24	4	4	8	7
H25	3	2	5	5
H26	13	1	14	13
計	29	11	40	37

(出典：農学部教務学生担当資料)

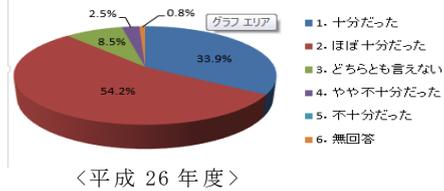
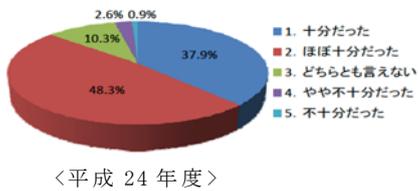
## 3. 学業の成果の到達度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

### 【アンケートから推察される学生の高い満足度】

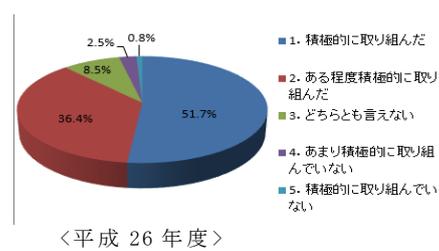
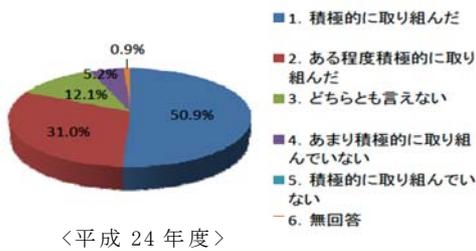
本学部は、卒業予定者を対象としたアンケート調査を卒業時に実施している(資料Ⅱ－Ⅱ－4)。「実験・実習・演習」については「ほぼ十分だった」以上の回答が85%に、「卒業論文研究」の設問では、「ある程度積極的に取り組んだ」以上が約80%に達している。「全体的満足度」では、90%以上の学生は「やや満足している」以上の評価を示している。平成24、26年度の比較ではいずれの項目でも学生の満足度は向上している。

資料Ⅱ－Ⅱ－４：平成24年度及び26年度卒業生に対するアンケート結果

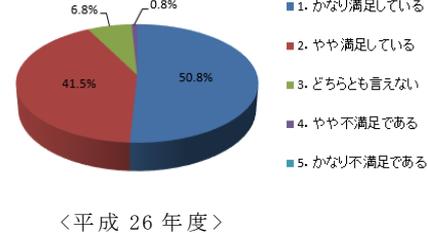
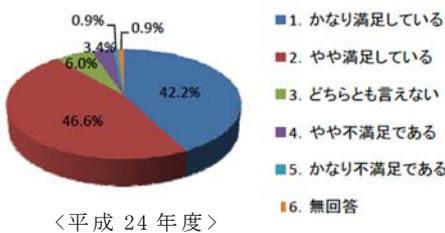
質問：実験・実習・演習の内容は十分なものでしたか？



質問：卒業論文にどの程度積極的に取り組みましたか？



質問：農学部教育にどの程度満足していますか？



(出典：農学部教務学生担当資料)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

約90%の学生が、本学部が教育として重視する卒業論文を完遂して標準修業年の4年間で卒業している。卒業論文研究の多数の成果が学会発表に結びつき、最近4年間で研究・学習成果による表彰は15件に達している。授業評価アンケートでは、全授業平均が4.0以上と高い水準を示している。卒業予定者に対するアンケートでは、「実験・実習・演習」や「卒業論文研究」に対しては85%以上、「農学部教育に対する全体的満足度」に対しては約90%の学生が肯定的評価をしている。これらの結果から本学部教育に対する学生の満足度は高く、教育目標が達成されていると判断できる。

**観点 進路・就職の状況**

(観点到に係る状況)

1. 進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況

【多様な就職先と大学院志向】

最近5年間の進路状況を資料Ⅱ－Ⅱ－5, 6に示す。経済状況が厳しさを増す中で、高度な知識・技術の習得と研究を求めて40%以上の学生が大学院に進学し、50%以上の学生が就職を希望している。就職率は、90%を超えており、農林水産業、建設業、製造業、運輸・通信業、金融・サービス業、医療関係、公務員など幅広い分野へ就職している。その

うち 30-40%が技術・研究職に就いており、公務員・教員への就職は5年間で82人、卒業生全体の10%以上、学部卒就職者の30%近くを占めている。公務員就職者の大部分は地方公務員上級職で農業試験場や農業改良普及員に、国家Ⅱ種でも農林水産省農政局などに職を得ている。食品衛生監視員コース修了者が各県の食品衛生職に就いており、農業高校教員や高校理科教員として活躍する学生もいる。

資料Ⅱ－Ⅱ－5：農学部卒業生の進路状況

卒業年度		H22	H23	H24	H25	H26
卒業生数		118	134	131	122	130
進学者数	岡山大学大学院	55	50	56	51	47
	他大学大学院	10	4	0	3	8
進学者数 (%) (卒業生に占める割合)		65 (55.1)	54 (40.3)	56 (42.7)	54 (44.2)	55 (42.3)
就職者数	農林・漁業	2	2	1	4	0
	鉱・建設業	1	1	1	1	2
	製造業	9	25	17	12	17
	運輸・通信・電力	1	6	6	4	6
	卸売・小売業	6	4	8	11	5
	金融・保険・不動産	1	6	9	6	8
	サービス業	8	3	9	2	10
	医療	0	2	4	1	3
	公務員・教員	12	17	14	20	19
	その他	0	1	0	0	0
就職者数 (%) (卒業生に占める割合)		40 (33.9)	67 (50.0)	69 (52.7)	61 (50.0)	70 (53.8)
去就未定者数	就職未定	5	8	3	5	5
	その他	8	5	3	2	0
就職率 (就職希望者に占める割合)		88.9	89.3	95.8	92.4	93.3

(出典：学校基本調査データ) ※各年度末現在

資料Ⅱ－Ⅱ－6：農学部卒業生の職種

年度 職種	H22		H23		H24		H25		H26	
	人数	割合 (%)								
技術・研究	16	40.0	25	37.3	22	31.9	22	36.1	30	42.9
事務	14	35.0	24	35.8	12	17.4	12	19.7	15	21.4
販売	6	15.0	11	16.4	25	36.2	21	34.5	18	25.7
教員	3	7.5	1	1.5	2	2.9	2	3.2	1	1.4
その他の保健・医療	0	0.0	2	3.0	4	5.8	3	4.9	3	4.3
その他	1	2.5	4	6.0	4	5.8	1	1.6	3	4.3
就職者数 計	40	100	67	100	69	100	61	100	70	100

(出典：農学部教務学生担当資料)

## 2. 学業成果に関する卒業生及び進路先・就職先への意見聴取等の結果とその分析結果 【就職先アンケート】

本学部卒業生の就職先アンケート結果を資料Ⅱ－Ⅱ－7, 8に示す。資質・能力の全体評価では、5段階評価で4以上が80%以上あり、2以下の否定的評価は皆無であった。個

別能力の評価では、専門分野の知識の高評価は基礎知識で約50%、高度な知識では35%にとどまったが、評価1,2の否定的評価はほとんどなかった。コミュニケーション能力、問題解決に関する能力では、高評価の割合が50%を超え、否定的評価はほとんどなかった。

【就職後の卒業生アンケート】

卒業生からの本学部の教育・研究内容に関する全体的評価では60%以上が高評価を示し、否定的評価はごく僅かであった(資料Ⅱ-Ⅱ-9)。一方、卒業生が大学生活で身に付けた個別能力の自己評価では、専門分野の知識では基礎知識で約50%、高度な知識で約35%が高評価、約20%が低評価であった(資料Ⅱ-Ⅱ-10)。協調性、コミュニケーション能力、問題解決能力に関する否定的評価はごく少数であった。

資料Ⅱ-Ⅱ-7：農学部卒業生就職先（企業、省庁、農業高校等）へのアンケート結果（全体評価）（平成25年度）

就職先による農学部卒業生の資質・能力評価（全体）		
評価	回答数	回答率(%)
5 高く評価できる	22	41.5
4 どちらかというと高く評価できる	22	41.5
3 普通	9	17.0
2 どちらかというとは評価できない	0	0.0
1 明らかに評価できない	0	0.0
0 判断できない	0	0.0
計	53	100.0

(出典：農学部教務学生担当資料)

資料Ⅱ-Ⅱ-8：農学部卒業生就職先（企業、省庁、農業高校等）へのアンケート結果（個別）（平成25年度）

就職先による農学部卒業生の資質・能力評価（個別、回答率%）

	協調性	コミュニケーション能力	プレゼン能力	情報処理能力・分析力	問題解決能力	問題点発見能力	外国語力(会話)	外国語力(読解・作文)	一般教養	専門分野高度な知識・技術	専門分野基礎知識・技術
5 高く評価できる	16.7	22.2	9.3	11.1	5.6	7.4	1.9	1.9	9.4	5.6	14.8
4 どちらかという と高く評価できる	48.1	33.4	40.6	50.0	48.1	48.2	3.8	13.2	51.0	29.6	37.0
3 普通	22.2	29.6	31.5	25.9	27.8	29.6	43.4	41.5	28.3	42.5	31.5
2 どちらかという と評価できない	1.9	3.7	3.7	1.9	7.4	3.7	7.5	5.7	1.9	1.9	0.0

1 明らかに評価できない	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0
0 判断できない	11.1	11.1	13.0	11.1	11.1	11.1	41.5	37.7	9.4	20.4	16.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出典：農学部教務学生担当資料)

資料Ⅱ－Ⅱ－9：農学部卒業生（平成20～24年度）への就職後アンケート結果（全体評価）  
（平成25年度）

評価	回答数	回答率 (%)
5 高く評価できる	15	19.7
4 どちらかという高く評価できる	33	43.5
3 普通	26	34.2
2 どちらかという評価できない	2	2.6
1 明らかに評価できない	0	0.0
0 判断できない	0	0.0
計	76	100.0

(出典：農学部教務学生担当資料)

資料Ⅱ－Ⅱ－10：農学部卒業生（平成20～24年度）への就職後アンケート結果（個別評価）  
（平成25年度）

卒業生による岡山大学での達成度評価（個別）

	協調性	コミュニケーション能力	プレゼン能力	情報処理能力・分析力	問題解決力	問題点発見力	外国語力（会話）	外国語力（読解・作文）	一般教養	専門分野高度知識・技術	専門分野基礎知識・技術
5 十分身につけることができた	17.1	15.9	6.1	4.9	6.1	6.1	0.0	1.2	4.9	4.9	12.2
4 身につけることができた	46.3	47.5	36.6	34.1	22.0	26.8	9.8	13.4	26.8	29.3	35.4
3 普通	32.9	31.7	35.4	46.4	53.6	50.1	26.8	34.1	53.7	38.9	32.9
2 あまり身につけていない	3.7	4.9	20.7	12.2	11.0	13.4	43.9	36.6	12.2	22.0	19.5
1 身につけていない	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	1.2	13.4	9.8	0.0	4.9	0.0
0 わからない	0.0	0.0	0.0	2.4	7.3	2.4	6.1	4.9	2.4	0.0	0.0

計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
---	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

(出典：農学部教務学生担当資料)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

就職率が90%を超え、大学院進学率が40%程度の水準を維持している。学部卒業生の就職先は、食品業や公務員を中心としながらも農学の幅広さを反映して、多様な分野へ広がっている。就職者の約30%が難関試験を突破して、公務員、教員として活躍している。就職先アンケートでは、卒業生に対する全体的評価では80%以上が高評価であり、否定的評価は皆無であった。就職後の卒業生アンケートでは、60%以上が教育・研究内容に対する設問で高評価を示した。また、教職員の細やかな支援により、去就未定者数は年園減少している。これらのことは、本学部の教育体制とその成果への高評価を示している。

## III 「質の向上度」の分析

## (1) 分析項目 I 教育活動の状況

生殖医療補助コースをはじめとする実践的講義・実習については、第1期末までに、「中四国地区国公立大学間連携プロジェクト 長い夏休み。未知のフィールドへの旅。」(資料Ⅱ-I-17 参照)と中国四国農政局と連携した「日本農業論」の2件のみであった。第2期には国公立大学連携単位互換制度を拡充し「晴れの国岡山-農場体験実習」(資料Ⅱ-I-10 参照)を加え、岡山県農林水産総合センター畜産研究所の協力による「まきばの実習」(別添資料5)、美作市・岡山県農業協同組合・農業者の協力による「美作まるごと食農体験実習」(別添資料7)、「バイオマス産業体験講座」(別添資料8)中国四国農政局、岡山県、農家の協力による「地域農業活性化実践論(農業者と大学生の車座トーク)」(資料Ⅱ-I-12, 13 参照)を加え、計6件に拡充した。

平成24年度から、医学部保健学科と共同で「生殖補助医療技術キャリア養成特別コース」を新設し、平成25年度には、全学組織の生殖補助医療技術教育研究センターに発展させ、本領域の国際的教育研究拠点化を目指している(資料Ⅱ-I-14 参照)。これは、本学動物生殖分野での高い教育・研究レベルと実際の生殖細胞を操作する生殖補助医療技術者(胚培養士)を輩出した実績に基づいたものである。これまで、我が国では体系的に胚培養士を養成する高等教育課程が未整備であった分野において、本学部が不妊治療現場で、全国の大学に先駆けて、胚培養士の国家資格化に耐えうる高度で綿密な高等教育体系を構築する本学の挑戦を牽引している。

優秀な学生に高度な学習の機会を与える特別コースについては、第1期には実績がなかったが、第2期に、優秀成績学生に受講させる先進基礎科学特別コース、社会のグローバル化に対応して国又は地域で活躍する中核の人材育成を目的としたグローバル人材育成特別コースに参加した。また、既存の学部、学科の枠組みを超えた横断型マッチングプログラム(以下「MP」という。)コース学生を受け入れ、卒業論文研究の指導も積極的に行っている。本学部からは、先進基礎科学特別コースには15名、グローバル人材育成特別コースには11名、英語副専攻コースには9名が参加しており、海外長期留学も15名が経験している(資料Ⅱ-I-15)。平成26年度末までにおいて本学部で卒業論文研究の指導を行ったMPコース学生数は計14名(全体の約30%)に達している(資料Ⅲ-I-1)。

資料Ⅲ-I-1：農学部で卒業課題研究を実施したMPコース学生の数

入学年度	卒業年度	農学部学生数				合計
		農芸化学	応用植物科学	応用動物科学	環境生態学	
H19	H22	0	0	0	0	0
H20	H23	0	0	0	0	0
H21	H24	0	1	1	2	4
H22	H25	1	1	1	4	7
H23	H26	2	0	1	0	3
計		3	2	3	6	14

(出典：農学部教務学生担当資料)

## (2) 分析項目 II 教育成果の状況

「学生による授業評価アンケート」(5段階評価)(資料Ⅲ-II-1)については、第1期の全専門科目平均は3.9であり平均評点3.0未満の講義も散見されたが、第2期に入り授業内容を改善し、平成24年度には全専門科目の平均は4.1以上に向上した。直近3年間の平均評点4.0以上の講義割合は平均76%を超え、平成21年度以降は平均評点3.0以下の講義は皆無となった。このように、学生授業評価アンケートからみた学部授業の評価は

確実に向上している。

「卒業時の学生による大学評価アンケート」（６段階評価）（資料Ⅲ－Ⅱ－２）の全体的教育満足度設問では、第１期初期の平成 17 年度では「やや満足している」以上の肯定的回答が 70%、「やや不満である」以下の否定的評価が約 10%みられたが、第２期では肯定的評価が約 90%の高いレベルを維持し、否定的評価は 5%以下になった。

これらのアンケート評価の改善は、アンケート結果の分析と教員へのフィードバック、授業ピアレビューの実施、FDに関する研修会への教員の積極的な参加等の教職員の努力による成果と自負している。

資料Ⅲ－Ⅱ－１：授業評価アンケート集計結果

		「授業全体に対する評価」 の集計結果				対象講義数	最終評価者数	回答講義率 (%)	回収率 (%)	
		平均 評点	平均評点 4.0 以上		平均評点 3.0 未満					
			講義数	割合 (%)	講義数					割合 (%)
第 1 期	H16	4.0	64	56.1	3	2.6	114	5,591	98.2	90.0
	H17	3.9	62	54.9	4	3.5	113	5,970	98.2	87.5
	H18	3.9	70	56.5	1	0.8	124	6,243	93.5	89.8
	H19	3.9	69	54.8	2	1.6	126	6,145	100	92.8
	H20	4.0	79	64.8	1	0.8	122	5,775	100	91.3
	H21	4.0	84	67.7	0	0	124	5,981	100	92.7
第 2 期	H22	4.0	83	68.6	0	0	121	6,046	100	92.4
	H23	4.0	83	67.5	0	0	123	5,965	100	92.4
	H24	4.2	94	82.5	0	0	114	5,800	100	95.1
	H25	4.1	93	82.3	0	0	113	5,588	100	95.9
	H26	4.1	74	65.5	0	0	113	5,445	99	91.5
	H27	4.1	43	69.3	0	0	62	3,022	100	93.0

（出典：農学部教務学生担当資料）※平成 27 年度は前期分のみ

資料Ⅲ－Ⅱ－２：卒業時学生アンケート結果

第Ⅰ期

評価	H17		H18		H19		H20		H21	
	回答 数	回答 率(%)								
非常に満足している	6	5.5	9	11.0	8	10.4	8	10.4	15	20.0
かなり満足している	28	25.5	23	28.0	25	32.5	21	27.3	24	32.0
やや満足している	43	39.1	29	35.4	33	42.9	36	46.8	27	36.0
どちらとも言えない	22	20.0	14	17.1	8	10.4	8	10.4	5	6.7
やや不満である	4	3.6	5	6.1	2	2.6	2	2.6	1	1.3
かなり不満である	6	5.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
非常に不満である	0	0.0	1	1.2	0	0.0	2	2.6	3	4.0
無回答	1	0.9	1	1.2	1	1.3	0	0.0	0	0.0

第Ⅱ期

評価	H22		H23		H24		H25		H26	
	回答 数	回答 率(%)								

非常に満足している	8	11.6	8	12.3	12	13.8	12	16.4	9	9.9
かなり満足している	26	37.7	24	36.9	37	42.5	25	34.2	32	35.2
やや満足している	29	42.0	26	40.0	34	39.1	26	35.6	38	41.8
どちらとも言えない	3	4.3	5	7.7	4	4.6	9	12.3	9	9.9
やや不満である	2	2.9	1	1.5	0	0.0	1	1.4	3	3.3
かなり不満である	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0
非常に不満である	0	0.0	1	1.5	0	0.0	0	0	0	0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0

注) アンケート実施時期はいずれの年度も1月

(出典：農学部教務学生担当資料)